



## ■ グリニッチ便り ■

Japanese Gospel Church of Greenwich

No. 178, 2015年11月号

グリニッチ福音キリスト教会

### Xmas Message: 地には平和があるように！ 立石尚志

「PEACE ON EARTH … 地には平和があるように」(ルカ2:14)とはキリストが誕生した最初のクリスマス、夜番をしていた羊飼いたちが天使たちから聞いたメッセージです。その最初のクリスマスから早二千十数年…。神の御心に反して、世界は自らをまたも戦いの渦中に引きずり込もうとしています。ISによるパリでの同時多発テロで120人以上が死亡し、トルコ・シリア上空でロシア機がトルコに撃墜され両国間の緊張が高まっています。中東に限らず世界中に紛争の火種があり、非戦を誓ってきた日本ですら、残念ながらこの夏、戦争参加への扉を大きく開けてしまいました。

**人類史**を眺めて見た時に、一つ明らかになることがあるとしたら、人類が自らの手で平和を作り出す能力を全く持ち合わせていない、ということではないでしょうか。そのような中で、クリスマスの鐘は昔も今も、「地に平和があるように！」で鳴り続けています。実に聖書全体のメッセージが「平和」なのです。しかしいったいどうやって「平和」がもたらされるのでしょうか？

**誰か！** なんとかしてくれ！問題に巻き込まれて二進も三進も行かなくなると、私たちは必ず「誰か」を求めます。ビートルズの歌“HELP”も、“Help! I need SOMEBODY”と言って「誰か」を求めていますね。だからこそ、次の社長が…、次の首相、次の大統領が…と言って何度でも人に期待をかけては、毎度、裏切られるのです。人間はダメなので、私たちは「神様、仏様！」「Oh, My God!」と叫び出すのですが、これがいささか不信仰、半信半疑…。本当に神様や仏様、My God が助けてくれると思っていないところが日本人にしても米国人にしても悪いところです。

**聖書**はしかし、その「神様」が私たちの問題に介入してくださった、という話なのです。仏さん(つまり死者)は聖書によれば私たち同様、皆、最後の審判を受けるべき存在なので残念ながら私たちを助けられません。私たちを助けることができるのはどこまでも全能の「神様」だけです。聖書は、平和の道を知らない人類の問題を解決するために、神がご自分の「子」、同じ神の性質を持つ「ひとり子」を、無力な赤子、人間の赤ちゃんとして地上に送ったというのです。これがクリスマスのストーリーです。

**赤子**のイエスは、ではどうやって世界に平和をもたらしたのでしょうか。大人になって天使の大軍勢を率い、神に逆らい問題を起こす全ての人々を滅ぼしたのでしょうか。

いいえ、キリストは行く先々で病を癒し、死人を蘇らせ、波・風・自然界を従わせ、紛れもなくご自分が創造主／神であることを明らかにしつつも、人がご自分を縛ることを許し、鞭打たれ、唾をかけられ、拳句の果てに無実でありながら、自ら暴力の犠牲となって十字架にかかって死ぬ、という方法をもって「平和の道」を切り開かれたのです。

**十字架**はそれではどのように平和への道になるのでしょうか？キリストを十字架につけた人々は知る由もありませんでしたが、神は、罪ある人類が本来受けるべき刑罰を無実のひとり子の上に全て注ぎ、人類の身代わりとして十字架上で苦しめて死なせたのです。イエスは十字架に架けられつつ「父よ、彼らをお赦してください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」と罪人のために執り成しをされ、神はその祈りを受け入れられました。それゆえに神の前に私たちが素直に自分の罪を認め、自分のためにキリストが十字架で死なれたことを受け入れるなら、神は私たちの罪を赦し、ご自分と和解させてくださるのです。

**神に赦された者**には、ところで早速一つの鉄則が与えられます。それは「神に赦されたのだから、必ず人を赦さなければならない」、「どんな時にも赦しに生きる」(マタイ6:12、マタイ6:15、マタイ18:21~35、エペソ4:32、コロサイ3:13)という命令です。ここに初めて、平和への道筋が生まれまします。なぜなら、**赦しがあって初めて平和が実現する**からです。もちろん、イエスを受け入れ、クリスチャンになっても赦しは最も困難な課題の一つであり続けます。しかし、「人にはできないことが、神にはできる」(ルカ18:27)とあるように、人が神と共に歩むなら、到底赦せない！不可能！と思える状況においてさえ、「赦すための力をください」という願いに応じて神は赦す力を与えてくださるのです。

**平和**は一人一人の人間から始まります。「夫(妻)とは口を利きません!」、「あの人のしたことは絶対に赦せない!」、「あの人はもう付き合わないことに決めた!」と言っている人が「なぜ宗教戦争が止まないの?」「なぜあなた達は平和に暮らせないの?」と言う資格が無いことは明白ですね。クリスマスのメッセージ、それは「平和」です。このクリスマス、その「平和」を自分のものとするために、是非キリストの十字架を自分のものとして受け入れ、神に赦された者となり、赦しに生きる者となりましょう！そうすれば、あなた自身が平和を創り出す人になれるのです！■



## 私の戦争体験

井上幸子さん (グリニッチ教会教会員)

敬老礼拝の日に証をさせていただくことになり有り難うございます。私の話は何時でも戦争の話になりますが、既に戦後70年が経過し、戦争の悲惨さを語り継ぐ人も非常に少なくなりました。今後2度とこのような経験をすることなく、平和を維持して欲しいという思いから、戦中、戦後の苦しみ、キリスト教に対する迫害について、話をしてみたいとおもいます。

大正生まれの私の人生は、戦争を抜きには語れません。青春時代の4年間、東京築地にある聖路加病院に付属した看護専門学校で学生として過ごしました。聖路加病院は1900年にアメリカの宣教医師トイスラー氏によってキリスト教

の宣教のため、「神の栄光と、人類の平和」を目指して小さい診療所として始められたと言われています。従ってキリスト教の精神に基づいた病院の運営、看護教育がアメリカ人の宣教師、教師を交えて行われていました。しかし、戦争開

始とともにアメリカ人、およびキリスト教に対する反発が起こり、宣教師、教師の方達は帰国を余儀なくされ、私が入学した時には既に、軍国主義の色が濃くなり始めていました。アメリカは憎むべき敵国となり、キリスト教も勿論排斥されました。聖路加という名前は大東亜中央病院と変更され、屋上の十字架は降ろされ、チャペルの灯りも消されました。

昭和20年になると、戦争はますます激しくなり、朝夕2回、敵機 B29 の編隊が上空から爆弾の雨を降らせて去りました。去った後の焼け野原には河や町に何十万の死者や負傷者が残され、焼け跡の中から負傷した人達を私たち看護学生が担架で病院に運びました。チャペルは、聖壇も、椅子も取り払われ、数え切れないほどの負傷者を収容する救護所となりました。医師も戦地に招集されて少なく、薬もない中で、やけどの膿液や血液に蛆虫がわき、ぼろぼろと落ちるその蛆虫をかき集め、死にゆく人達をただ傍で見守る以外何もできないような毎日でした。食糧もなく、日々の命の保障もないこのような状況の中でも命を失わず、生かされて来たことは、感謝です。

戦争が終わった後の1年間は今考えると人生で、最も惨めな時期であったと思います。命を懸けて日本を守るといふ大きな目的を失い、一夜にして軍国主義から民主主義に変わるといふ大きな転換を迎えたのです。しかし食べるものもなく、配給の米では飢えをしのぐことも出来ず、焼け残ったものを持って農家でわずかの米に変えてもらっても、帰途、闇米の取り締まりに合い没収されたり、配給以外の米は食べないと頑張った裁判官が餓死したりするといふような日々でした。疎開していた子供達の多くが親を失い、巷に戦災孤児があふれていました。

戦後2-3年経って私も少し気持ちにゆとりが出来、昭和23年(1948年)に第2の洗礼である按手を受けました(家族が聖公会であったので、乳児洗礼を受けています)。その時、エステルと言うクリスチャンネームをいただきました。敗戦国となった日本を守れという神の意思がこの名前にこめられ

ていたのではないかとこの頃思うようになりました。この頃には、国民の間にも敗戦国となった日本を立て直さねばという機運が出始め、月月、火水木、金金と、土曜日曜なく働きました。この時代の頑張りが日本の復興の基盤になっているように思います。

戦後は、外地から多くの方が引き上げて来られ、貧困に加え、今まで日本になかった伝染病、コレラ、破傷風、しらみが媒介する発疹チブスや、結核、性病、など多くの問題が起こり、当時、保健婦として働いていた私はただがむしゃらに働くのみで、30-40年の間、あまり教会に行くこともありませんでした。教会には行っていませんでしたが、何時も私から神様を除いたら、何が残ののだろうかと思問していましたし、何時も神様は傍にいてくれることを感じていました。

67歳で仕事をやめ、国際結婚をし、アメリカに住むことを決心しました。敵国として戦ったアメリカに永住することになるとは夢にも思わなかったことですが、これも神の計画の中にあつたことだと思ひます。全く知人のいないアメリカで所属すべき教会を探し、あちこち訪ねましたが、英語の弱い私にはどうしても馴染めず、また暫く教会から離れておりました。しかし、どうしても心が満たされず、落ち着かない日々を過ごしていました。棟方さんから、近くに日本語の教会があることを聞き、本当に砂漠で水を得たような感謝でした。早速、教会を訪ね、教会員として受け入れて貰いました。淋しくて魂が飢えていた私に聖霊の働きかけがあつたのだと信じています。

残酷な戦争中に青春時代を過ごし、今日まで生き延びてきた人生ですが、今は平和な時代に生かされていることを感謝し、2度とこのような戦争に巻き込まれないように、人が人を殺すような時代がないように祈りたいと思います。「信仰こそ旅路を導く杖」、「恐れるな、私がいるから」、「喜びなさい、祈りなさい、感謝しなさい」…最近これ等の御言葉が常に私の心を占めています。■

## ■ 2015年~2016年 冬の集會・行事予定 ■

※ 下記以外にも週間に入門クラス、聖書の学び会等が行われています。お問い合わせください。

### 【定例集會】

- ★ 日曜礼拝/10:30~12:00  
礼拝前 グループ会/9:45-10:20
- ★ 祈り会/水曜日 10:00~12:00

### 【各種集會】

- ★ スタンフォード 聖書を読む会  
隔週水曜午後 1:15 場所: 井上宅
- ★ ハートフォード 聖書を読む会  
隔週月曜午前 10:00  
毎週木曜午前 場所: お問合せください

- ★ クィーンズ家庭集會  
月1回土曜夜 5~7時 場所: 要問合せ
- ★ マウントキスコ 聖書を読む会  
毎週木曜 8:00pm 場所: 平野宅

### ● ウェルカム礼拝 12/27(日)、2016年 1/31(日)、2/28(日) 10:30AM~12:00AM

毎回信仰生活の実体験の話し、また聖書の入門的なメッセージを行っています。来会をお待ちしています!

### ● こどもクリスマス会 12/13(日) 2:00PM~3:30PM 対象: 幼稚園児から小中学生、

クリスマス降誕人形劇、クリスマスのお話、ゲーム、プレゼントもありますよ!

### ● クリスマスの夕べ/GOSPEL NIGHT 12/20(日) 5:30PM~7:30PM

ゴスペルクワイア、キャンドルサービス、クリスマスメッセージ。ご一緒にクリスマスを祝いましょう!

### ● 元旦礼拝 1/1(金) 10時~11時、新年礼拝 1/3(日) 10時半~礼拝後...お餅を食べる会

★★★以上、詳しくは教会のウェブページにチラシ、案内がありますので、そちらをご参照ください。

《教会住所》グリニッチ福音キリスト教会 (Japanese Gospel Church of Greenwich)、 牧師 立石尚志

c/o St. Paul Ev. Lutheran Church, 286 Delavan Ave. Greenwich, CT 06830 website: [www.jgclmi.com](http://www.jgclmi.com)

《問い合わせ》 教会 TEL/FAX(203)531-6450、牧師宅 TEL/FAX (203)531-1609, e-mail: [church@jgclmi.com](mailto:church@jgclmi.com)

